

数学科学習指導案（略案）

日 時 令和8年1月20日（火）
対 象 第3学年1組基礎クラス14名
授業者 教諭 青木由希子
会 場 3階3年6組教室

1 単元名 3年間の復習 『中学数学3』（日本文教出版）

2 単元の目標

- ・文字を用いた計算や、図形の構成要素の関係に着目して性質や計量を求めること、関数関係の特徴を表・式・グラフに表すことができる。
- ・文字を用いて数量の関係や法則を考察すること、図形の構成要素の関係に着目して性質や計量を論理的に考察し表現すること、関数関係の特徴を表・式・グラフに相互に関連付けて考察することができる。
- ・課題の難易度を自己評価し、文字を用いた数量の関係や法則、図形の構成要素の関係、関数関係の表・式・グラフにおける特徴について、自力思考や比較検討を通して理解を深めようとしている。

3 研究主題「主体的に学びに取り組む生徒の育成」の実現に向けて

【Bグループ：評価基準の提示を通して生徒に学習の見通しをもたせ、主体的に学ぶ姿勢を高める】

(1) 日常の学習活動の中で行っている工夫

生徒同士の教え合い・学び合いを多く取り入れ、個々の課題を解決するとともに、話し合いと説明を通して理解を深める。また、小テストや課題、レポートに取り組ませる際には評価基準を明示する。学習目標と評価基準を示すことで、生徒は学習に取り組みやすくなり、主体的に学ぼうとする態度の育成につながると考える。

(2) 本時の工夫

教科書内容の学習を終えているため、3年間の内容を体系ごとに総復習する。入試に向けた対策も兼ね、習熟度別少人数での展開と話合い活動により、問題への理解を深める。導入で難易度を3段階で自己評価し、展開で自力思考と比較検討をし、まとめで振り返りを行う。

4 本時（全7時間中の第4時）

(1) 本時の目標

3年間で学習した内容について、基本的な知識を確認し、身に付けることができる。

(2) 本時の展開 ※太字部分は各テーマに沿った工夫・手だて

時間	○学習活動等 (生徒)	○指導・援助 (教員) ◆評価<方法>
導入 8分	前時の振り返り ・前時の内容が定着しているか個人で確認する。	○生徒の定着度やつまずきを把握する。
展開 37分	<p style="color: red; border: 1px solid black; padding: 5px;">目標：3年間で学習した内容について、基本的な知識を確認し、身に付けることができる。</p> <p>○「3年間の総まとめ問題集」 p. 125について、本時で扱う課題を把握し、自分にとっての難易度を3段階で自己評価する。 ○自力思考。 ・個人で課題に取り組み、解き方やポイントを整理する。</p> <p>○比較検討 ・生徒同士で相談し、各課題の解き方、解法のポイント、発想の手掛かりをまとめる。</p>	<p>○問題に「○」「△」「□」を付けさせる。 「○」…簡単そう、絶対解けるべき問題 「△」…考えればできそう、勝負所となる問題 「□」…難しそう、後回しにする問題 ○個人の力で取り組ませる。</p> <p>○生徒の気付きを全体に共有し、机間指導で助言する。</p>
まとめ 5分	○振り返りシートで自己評価を行う。	<p>◆主体的に学習に取り組む態度<振り返りシート> ・「○」、「△」、「□」を付けたそれぞれの問題について、評価基準を示して取り組ませる。</p> <p>A : 全ての問題についてポイントを記述できた。 B : 全ての問題を解くことができた。 C : 解き切ることができなかつた。</p>

数学科学習指導案（略案）

日 時 令和8年1月20日（火）
対 象 第3学年1組発展クラス 24名
授業者 主任教諭 兵藤紀幸
会 場 3階3年1組教室

1 単元名 3年間の復習 『中学数学3』（日本文教出版）

2 単元の目標

- ・文字を用いた計算や、図形の構成要素の関係に着目して性質や計量を求めること、関数関係の特徴を表・式・グラフに表すことができる。
- ・文字を用いて数量の関係や法則を考察すること、図形の構成要素の関係に着目して性質や計量を論理的に考察し表現すること、関数関係の特徴を表・式・グラフに相互に関連付けて考察することができる。
- ・課題の難易度を自己評価し、文字を用いた数量の関係や法則、図形の構成要素の関係、関数関係の表・式・グラフにおける特徴について、自力思考や比較検討を通して理解を深めようとしている。

3 研究主題「主体的に学びに取り組む生徒の育成」の実現に向けて

【Bグループ：評価基準の提示を通して生徒に学習の見通しをもたせ、主体的に学ぶ姿勢を高める】

(1) 日常の学習活動の中で行っている工夫

生徒同士の教え合い・学び合いを多く取り入れ、個々の課題を解決するとともに、話し合いと説明を通して理解を深める。また、小テストや課題、レポートに取り組ませる際には評価基準を明示する。学習目標と評価基準を示すことで、生徒は学習に取り組みやすくなり、主体的に学ぼうとする態度の育成につながると考える。

(2) 本時の工夫

教科書内容の学習を終えているため、3年間の内容を体系ごとに総復習する。入試に向けた対策も兼ね、習熟度別少人数での展開と話合い活動により、問題への理解を深める。導入で難易度を3段階で自己評価し、展開で自力思考と比較検討をし、まとめで振り返りを行う。

4 本時（全7時間中の第4時）

(1) 本時の目標

平面図形について、合同・相似と円・三平方の定理を組み合わせて活用することができる。

(2) 本時の展開 ※太字部分は各テーマに沿った工夫・手だて

時間	○学習活動等 (生徒)	○指導・援助 (教員) ◆評価<方法>
導入 5分	○「3年間の総まとめ問題集」 p. 125 を解き、自己採点する。	
展開 40分	<p style="text-align: center;">目標：合同・相似と円・三平方の定理を合わせて活用することができる。</p> <p>○本時で扱う課題を把握し、自分にとっての難易度を3段階で自己評価する。 ○自力思考。 •個人で課題に取り組み、解き方やポイントを整理する。</p> <p>○比較検討 •生徒同士で相談し、各課題の解き方、解法のポイント、発想の手掛かりをまとめる。</p>	<p>○問題に「○」「△」「□」を付けさせる。 「○」…簡単そう、絶対解けるべき問題 「△」…考えればできそう、勝負所となる問題 「□」…難しそう、後回しにする問題 ○個人の力で取り組ませる。</p> <p>○生徒の気付きを全体に共有し、机間指導と板書により助言する。</p>
まとめ 5分	○振り返りシートで自己評価を行う。	<p>◆主体的に学習に取り組む態度<振り返りシート> •「○」、「△」、「□」を付けたそれぞれの問題について、評価基準を示して取り組ませる。</p> <p>A : 全ての問題についてポイントを記述できた。 B : 全ての問題を解くことができた。 C : 解き切ることができなかつた。</p>

理科学習指導案（略案）

日 時 令和8年1月20日（火）
対 象 第3学年2組 37名
授業者 主任教諭 磯部大輔
会 場 3階3年2組教室

1 単元名 第2章「太陽と恒星の動き」 『未来へひろがるサイエンス』（啓林館）

2 単元の目標

- ・身近な天体とその運動に関する特徴に着目しながら、日周運動と自転、年周運動と公転についての基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技術を身に付けている。
- ・天体の動きと地球の自転・公転について、天体の観察、実験などをを行い、その結果や資料を分析して解釈し、天体の動きと地球の自転・公転についての特徴や規則性を見いだし表現するとともに、探究の過程を振り返るなど、科学的に探究している。
- ・天体の動きと地球の自転・公転に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

3 研究主題「主体的に学びに取り組む生徒の育成」の実現に向けて

【Bグループ：評価基準の提示を通して生徒に学習の見通しをもたせ、主体的に学ぶ姿勢を高める】

(1) 日常の学習活動の中で行っている工夫

実験・観察では、本時の学習内容を提示し、見てほしい点や考えてほしい内容（評価基準に関わる事項）を明示する。これにより、考察に取り組みやすくなり、主体的に学ぼうとする態度を育成する。

(2) 本時の工夫

天体分野では問題演習に多く取り組む。学習内容の確認（復習）を行った後、問題演習に取り組む流れを明確にし、主体的な学習につなげる。

4 本時（全10時間中の第9時）

(1) 本時の目標

日周運動は地球の自転、年周運動は地球の公転によるものであることを踏まえ、問題演習を通して星座の見え方や規則性を理解する。

(2) 本時の展開 ※太字部分は各テーマに沿った工夫・手立て

時間	○学習活動等（生徒）	○指導・援助（教師） ◆評価<方法>
導入 3分	○本時の学習内容を確認する。	○出席確認を行い、本時の学習内容を確認させる。
展開 45分	目標：日周運動や年周運動による星座の見え方や規則性を理解することができる。	

	<p>○星の日周運動について確認する。</p> <p>○日周運動の問題に取り組む。</p> <p>○星の年周運動について確認する。</p> <p>○年周運動の問題に取り組む。</p>	<p>○星の日周運動について確認させる。</p> <p>○問題に取り組ませる。</p> <p>○机間指導を行い、進んでいない生徒に助言する。</p> <p>◆知識・技能<問題演習></p> <p>評価基準を示し、取り組ませる。</p> <p>A : 日周運動と地球の自転を関連付け、いくつかの事例を指摘しながら星座の見え方や規則性（1時間で約 15° 、2時間で約 30° ）を理解している。</p> <p>B : 日周運動と地球の自転を関連付け、星座の見え方の規則性（1時間で約 15° 、2時間で約 30° ）を理解している。</p> <p>C : 日周運動と地球の自転を関連付けることができない。</p> <p>○星の年周運動について確認させる。</p> <p>○問題に取り組ませる。</p> <p>○机間指導を行い、進んでいない生徒に助言する。</p> <p>◆知識・技能<問題演習></p> <p>評価基準を示し、取り組ませる。</p> <p>A : 年周運動と地球の公転を関連付け、いくつかの事例を指摘しながら星座の見え方や規則性（1か月で約 30° ）を理解している。</p> <p>B : 年周運動と地球の公転を関連付け、星座の見え方の規則性（1か月で約 30° ）を理解している。</p> <p>C : 年周運動と地球の公転を関連付けることができない。</p>
まとめ 2分	○日周運動と年周運動の要点を確認する。	

社会科学習指導案（略案）

日 時 令和8年1月20日（火）
対 象 第3学年3組 37名
授業者 主任教諭 金丸 悠子
会 場 3階3年3組教室

1 単元名 国際社会に生きる私たち 『中学社会 公民 ともに生きる』（教育出版）

2 単元の目標

- ・国や地域が結び付く現代の国際社会を生活との関わりから理解できる。
- ・人権・平和・安全の課題を多面的に捉え、根拠を示して妥当な解決の道筋を表現している。
- ・国際社会に関する諸問題について対話し、自分にできる行動を考えている。

3 研究主題「主体的に学びに取り組む生徒の育成」の実現に向けて

【Aグループ：主体的な学びを促すための導入、問い合わせを工夫する】

（1）日常の学習活動の中で行っている工夫

学習活動において、実際の事例やニュースを積極的に教材化し、学びを自分ごとに近付けることで、生徒が考えたくなる問い合わせから学習を始めるようにしている。明確な答えが出る問い合わせに限らず、価値観や生活背景によって答えが分かれ得る問い合わせや、自らを歴史や政治の登場人物に置き換えて最適な行動を考える答えのない問い合わせを扱い、「なぜ」、「どうして」、「どちらがよいか」といった疑問を喚起する。

（2）本時の工夫

教科書の主題「安全をおびやかす要因」に即して、価値観を揺るがす問い合わせ「ブルンジにある村で、コーヒー豆の収穫は伸びたのに子供の栄養不良が増えたのはなぜか。」を提示する。「収穫や価格が増えれば暮らしも良くなる」という直感を意図的に揺らし、探究への動機付けを行う。この問い合わせを中核の「謎」として設定し、手持ちの断片資料（カード）のみで解決への筋道を構成させるミステリー型の思考ツールを用いる。事実を「謎の解決に関わる要因」として多面的に捉え、生活との関わりを自分の言葉で説明する力を養う。その過程で、社会の出来事を自分事として捉え、問題解決に向けて考え続ける主体的な学びの態度を育成する。

4 本時（全3時間中の第3時）

（1）本時の目標

ブルンジのコーヒー産地の村を例に、安全をおびやかす要因を多面的に捉え、生活との関わりを自分の言葉でまとめることができる。

（2）本時の展開 ※太字部分は各テーマに沿った工夫・手だて

時間	○学習活動等（生徒）	○指導・援助（教員）◆評価<方法>
導入 8分	○課題を読み、大まかな状況をつかむ。 ○今日の課題文（結論は一文、三段	○価値観を揺るがす問い合わせ「ブルンジのコーヒー地帯にある村で、コーヒーの収穫は伸びたのに子どもの栄養不良が増えたのはなぜか。」を提示し、全員

	で説明、反証の扱いも書く)と評価の観点を確認する。	で共有させる。 ○ワークシート様式を提示し、結論とA(原因)・B(条件)・C(結果)の書き方を確認させ、カードの読み方と禁止事項(インターネット検索不可)を理解させる。
展開 37分	<p style="text-align: center;">目標：複数の要因から、ブルンジで起こっている問題を解き明かそう。</p> <p>①個別読解・方針決め ・全24枚のカードを4人班で読み、使用するカードを選び、A→B→Cの順に机上で並べる。結論一文と使用カード番号をワークシートに記入する。</p> <p>②班内推敲→最終記入 ・結論一文、A・B・Cの三段、反証の扱い、使用カード一覧をライティングカードに清書し、ロイロノートの提出箱へ提出する。</p> <p>③投票 ・詳しく話を聞きたい班に投票する。</p> <p>④発表 ・選ばれた代表班が各2分でA→B→Cを詳しく説明する。 ・他班の生徒は説明を聞いた上で、質問があれば質問をする。</p>	<p>○カードの分類の偏りを巡回確認し、「これは結果ではないか」などと問い合わせて視点を整えさせる。</p> <p>○提出一覧をタイトル順で表示し、投票させ、上位2班を選出する。</p> <p>○A・B・Cの過不足や逆因果の有無を自己点検させる。</p> <p>◆思考・判断・表現<観察> 発表内容と質疑応答で思考の深さを観察記録に残す。</p>
まとめ 5分	○ワークシートで本時の振り返りと感想を記入する。	<p>○収穫や買い物価格が上がっても、肥料や燃料、主食の購入、時間の使い方などの条件が重なると生活環境は改善しない可能性があることを確認させ、国や地域が結び付く国際社会の中で安全や暮らしを守るために私たちがどんな選択や協力ができるかを考え続けることの重要性を理解させる。</p> <p>◆主体的に学習に取り組む態度<ワークシート> 振り返りの記述で観点「論理の一貫性」「主体性」を最終確認する。</p>

国語科学習指導案（略案）

日 時 令和8年1月20日（火）
対 象 第3学年4組 37名
授業者 主任教諭 高橋 秀明
会 場 3階3年4組教室

1 単元名 「温かいスープ」今道友信 『国語3』（光村図書）

2 単元の目標

- ・自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解できる。
- ・文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見を持っている。
- ・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり思いや考えを伝え合っている。

3 研究主題「主体的に学びに取り組む生徒の育成」の実現に向けて

【Aグループ：主体的な学びを促すための導入、問い合わせを工夫する】

(1) 日常の学習活動の中で行っている工夫

発問をする際に、どの単元でも自分のこととして考えられるように、言葉を置き換えながら発問をしている。それに伴い、自分ごととして考えようとする生徒が増え、授業での反応に変化が見られている。

(2) 本時の工夫

グループ活動への意欲を高める発問で導入し、主体的な取り組みにつなげる。他者の意見に触れ、自分の考えを比較・深化させる機会を設ける。

4 本時（全2時間中の第1時）

(1) 本時の目標

- ・段落構成を把握し、その中から筆者の言いたいことを捉えることができる。
- ・筆者の主張の根拠を見付け、内容を理解することができる。

(2) 本時の展開 ※太字部分は各テーマに沿った工夫・手だて

時間	○学習活動等（生徒）	○指導・援助（教員）	◆評価<方法>
導入 5分	<p>○これまでの授業で扱った随筆学習を思い出す。 (1年次から順に問い合わせをし、振り返る)</p> <p>○どこに大事な文章が書かれていたかを思い出す。</p>	<p>○これまで学習してきた随筆を例に出し、本時の学習につなげさせる。 (少年の日の思い出、走れメロスなどが出てくる想定。どんな話だったのか深堀する。)</p> <p>○最初や最後に書かれていたという例を出し、本時の導入とする。</p>	

目標：文章の要点を掴み、内容理解につなげる。

展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> ○小段落を見付け、教科書に数字を書く。 (グループワーク) ○小段落の中で筆者の言いたいことが書かれている段落を探す。 ○8段落の中から最も大事な一文を探し、教科書に線を引く。 ○大事な一文がなぜそう言えるのか、その根拠を見付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一斉に小段落に分けさせ、教科書に数字を記入させる（8つの段落となる）。 ○グループの形にし、8つの中からどの段落が筆者の主張かを見付けさせる。決定後、代表者に前で報告させる（正解は8段落）。 ○教科書に線を引かせ、代表者に報告させる（班の答えを控え、次の展開につなげる）。 ○全班の答えを紹介する（複数回答を想定。1つだけの場合はそのまま進め、正答が出なければ再考させる）。 <ul style="list-style-type: none"> ◆思考・判断・表現<観察> ・文章の構成から作者の言いたいことに着目できているか。 ○文末や語句に注目させ、読解のポイントに気付かせる。 ◆思考・判断・表現<観察> ・文章の表現に着目し、要点を見付けることができるか。
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ○段落の中での大事な部分を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○大切なポイントを繰り返し伝え、理解を深める。

社会科学習指導案（略案）

日 時 令和8年1月20日（火）
対 象 第3学年5組 37名
授業者 主幹教諭 笠原 信寛
会 場 3階3年5組教室

1 単元名 国際社会に生きる私たち 『中学社会 公民 ともに生きる』（教育出版）

2 単元の目標

- ・国際社会が抱える多くの課題の解決のために、国際社会全体の経済的、技術的な協力などが大切であることを理解している。
- ・国際社会が抱える多くの課題の解決のために、日本の果たすべき役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。
- ・国際社会の平和の維持と現代の国際社会が抱える様々な課題について、現代社会に見られる課題の解決を目標にして、主体的に社会に関わろうとしている。

3 研究主題「主体的に学びに取り組む生徒の育成」の実現に向けて

【Aグループ：主体的な学びを促すための導入、問い合わせを工夫する】

(1) 日常の学習活動の中で行っている工夫

授業の導入で、実際に起きている社会の事象に触れる活動を行う。特に公民分野では、基本的人権に関わるクイズを出題したり、ニュース映像を視聴したりしている。授業の展開でも映像資料などを用い、自分が知らない場所で起きている人権侵害を知ることで、価値観を揺さぶるとともに、自分ごととして考えさせるよう工夫している。

(2) 本時の工夫

バーチャルウォーター（仮想水）の概念を紹介する。バーチャルウォーターとは、食料を輸入している国（消費国）において、もしその輸入食料を生産するとしたら、どの程度の水が必要かを推定したものである。食料自給率の低い日本では、世界から多くの食料とそれに伴う「水」を輸入しており、世界の水・食糧問題に影響を与えていると考えられる。生徒自身が考えもしなかった「自らの食生活が世界の水・食糧問題に影響を与えている」という考えに触れさせることで、主体的に学びに取り組む生徒を育成していく。

4 本時（全7時間中の第4時）

(1) 本時の目標

「人間の安全保障」という視点から、食料と水の不足を中心に、世界が抱える深刻な問題の原因や背景について考える。水資源をめぐって起こっている世界の動きに気付き、生活への影響やこれからの世界のあり方を考えるとともに、自分にできる行動を考える。

(2) 本時の展開 ※太字部分は各テーマに沿った工夫・手だて

時間	○学習活動等（生徒）	○指導・援助（教員） ◆評価<方法>
導入 15分	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書 P. 216 資料 1～3 と、映像資料から、世界の水・食料問題について考える。 映像「水の国際行動の 10 年 - 2018 - 2028 世界的な水危機を回避するために」国連広報センター ○バーチャルウォーター（仮想水）の概念を知り、実際に計算してみる。 資料「仮想水計算機」（環境省ホームページ） https://www.env.go.jp/water/virtual_water/kyouzai.html 	<ul style="list-style-type: none"> ○世界の水・食料問題が人権に関わる大きな問題であることを捉えさせる。 ○「あなたの食生活が、世界の水・食料問題に影響を与えている」と問い合わせ、バーチャルウォーター（仮想水）の概念を紹介し、日本が世界の水・食料問題に影響を与えている可能性に気付かせる。
目標：私たちが、世界の水・食料問題にできることは何だろう。		
展開 30分	<ul style="list-style-type: none"> ○水・食料問題について理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・教科書を読み、水・食料問題について理解する。 ○水・食料問題について、取り組みを調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・既習事項である国連機関や、NGO が関わっていることを予想し、それぞれの機関・団体の取り組みを調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書を読み、水・食料問題について理解させる。 ○水・食料問題について、取り組みを調べさせ、自分たちでもできる取り組みを予想させる。 <p>◆思考・判断・表現<ワークシート></p>
まとめ 10分	○授業を振り返り、自分自身が世界の水・食料問題に対してできることを考察する。	◆主体的に学習に取り組む態度<ワークシート>